

ジュビレ(聖年)とは？

- カトリック教会で最初のジュビレはどのようなものだったのでしょうか？
- 今日の意味は？ どのようなアプローチで私たちを招いていますか？

1. カトリック教会で最初のジュビレはどのようなものだったのでしょうか？

ご存知のように、25 年ごとに教会はジュビレを祝います。いつからはじまったのでしょうか？

第 1 回目のジュビレは 1300 年に教皇ボニファティウス 8 世の下で祝われました。ジャコポ ステファネス枢機卿の書いた当時の記録「le Livre de l'année centenaire ou du jubilé」のおかげでよく知ることができます。それによれば、1299 年最後の日に、100 周年記念の年にサン・ピエトロ大聖堂を訪れた人は、犯した罪に免償が与えられるという噂がローマ人の間で広まりました。その後、12 月 31 日の夜中、非常に多くの人々が大聖堂に押し寄せました。そして、これは 1 月を過ぎても 2 月を過ぎても続き、近隣諸国からも多くの巡礼者が集まりました。教皇は驚きをもってこれらのことを見ました！さてどうしよう？

ボニファティウス 8 世は、民衆の信心に逆らうことを望まず、100 周年記念の問題について枢機卿会議に諮り、徳高きこの使徒たちから好意的な意見を得たので、1300 年 2 月 22 日にサン・ピエトロ大聖堂で発表する文書を作成するよう命じました。

教皇のこの勅書によって、罪のゆるしのジュビレの年が宣言されました。それには条件が列挙されています。

全免償つまり犯した罪に対する罰の完全な免除を受けるために、その主なる条件は自分の過ちを心から悔い改め、ゆるしの秘跡を受けることでした。また、使徒聖ペトロと聖パウロのバジリカへ、外国人は 15 日間、ローマ人は 30 日間、訪問しなければなりませんでした。

これが最初のジュビレです。次のジュビレまで 100 年待たなければならないのでしょうか？ それではなかなか参加できません！次のジュビレはすでに 1350 年に祝われ、15 世紀の終りには現在のように 25 年ごとになりました。

2. 今日の意味は？ どのようなアプローチで私たちを招いていますか？

レビ記には、50 年目は特別な恵みの年である聖なる年であるとあります。預言者イザヤも 61 章 2 節で「主が恵みをお与えになる年」と宣べ伝えました。

イエスは、ルカ福音書にあるように、ナザレでの彼の宣教の初めにこの宣言を取り上げています（ルカ 4,16-22）。

「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、**主の恵みの年を告げるため**である。」そしてイエスはさらに、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と言います。

イエスはこの預言を引用し、これが成就したのは今であると告げます。イエスはジュビレの年、解放、赦し、刷新を宣言したといえましょう。私にとって、これがジュビレを祝う深い目的です。それは、イエスのジュビレを実現することです。つまり、私たちが貧しい人々に良い知らせを告げ知らせ、悪と罪からの解放を宣言し、私たちが人生の意味を取り戻す視野をえるため、私たちが恐怖、悲しみ、落胆、行動主義、利己主義、野心によって抑圧されている私たちに自由を与えるためです。

ですから、ジュビレの年は何よりもイエスに目を向けるためのものです。それは、私たちの中に流れる神聖な源に戻るためのゆるしと和解のプロセス、回心です。ですから、それは神に近づくための招きなのです。

私たちを助けてくれる3つのこと

1. ローマ巡礼

特に、教会の柱である 2 人の使徒ペトロと使徒パウロの墓への巡礼。この巡礼は、私たちの全存在が一つの歩みであることを思い出させてくれます。それはまず、本質的なものとながらために自分自身に戻ることを、そして「わたしは(...)驚くべきもの」(詩編 139)であり、神の目にいとおいしい子であることを見出すことへの招きです！ しかし、それはまた、自分自身から抜け出し、未知の世界へ入るための招待状でもあります。私たちは一人で探求するのではなく、自己放棄、単純さ、委ねる姿勢でキリストに従い、コミノテの中で、教会の中でキリストと共に歩んでいます。

それでは、始めましょう！ 今年はローマに行かなくても、それぞれの教区に巡礼教会があります。

2. 聖なる扉

ジュビレの最も力強い象徴の 1 つは、ローマの主要な大聖堂で聖なる扉が開かれることです。私たちは、罪と至らなさから主の恵みの生活へ、そして信仰と愛の刷新への道のりを表現する信仰と悔い改めの旅のうちにそれをくぐります。それは、過越を追体験することであり、「私は門である」と言ったキリストを通して私たちの洗礼を更新することです。

ですから、私たちもまた、もう少し神の心に入りたいという望みを持って、「扉」を通り抜けましょう！

3. 免償

全免償は、神の恵みの賜物であり、もし私たちが心から悔い改めるなら、私たちをゆるしてくださいという、神の完全に自由な行為です。

この全免償を受けるために、深く生きる姿勢についての3つの「条件」があります。

- まず第一に謙遜さ、あわれみ深い神との出会いとしてゆるしの秘跡を受けるための、罪に対する個人的な痛悔です。
- 第二に、教会共同体との交わりに入り、ミサにあずかり聖体拝領をし、教皇と教会の意向に合わせて祈ることです。
- 最後に、私たちは、他者や貧しい人々への配慮という真の慈善行為を通して、私たちの回心を具体的に表現するよう求められています。

ということで、喜びをもってこのあわれみの賜物を迎えて、感謝と希望をもって生きましょう！